

先月末からブラジル最大の港・サントス港で通関職員によるストライキが行われています。今号では継続するストライキがおよぼす物流への影響についてお伝え致します。

1. サントス港のストライキ

サントス港は南米人口第二の都市サンパウロに近く、食糧を中心に貨物取扱量を拡大させているブラジル貿易の重要な物流拠点となっています。このサントス港において2017年10月27日から通関職員がストライキを行っています。今回のストライキが発生した背景には、賃金上げが約束されてから1年以上実現していないことや政府が定年退職の年齢を上げようとしていることがあります。当初はサントス港の職員のみがストライキに参加していましたが、ブラジル全土で約7000人がストライキに参加することが予想され、ブラジル国内のみならず、隣国のアルゼンチンやパラグアイ、ウルグアイにも深刻な影響をおよぼしています。



(地図: Google Map)

2. 物流に与える影響

サントス港にはブラジル全体で取り扱うコンテナの約40%が集まり、年間取扱量は360万TEUにもなります。ストライキが収束するまでの期間は、医薬品や動植物、船員食料など緊急性の高い貨物の通関が優先されており、コンテナが港から搬出されるまで平常時には24時間以内のところ、現在では5日ほどを要しているとの情報があります。港に滞留しているコンテナも、ストライキ発生から一週間ですでに3000から4000本にのぼると報道されており、予定した船舶へのコンテナ積込が間に合わないことで、コンテナに延滞料が課せられたり海上運送人が運賃を得られなかったりするケースも発生しているようです。港名の「サントス」が豆の名前にもなっているように、ブラジルはコーヒーの最大の輸出国であり、10～11月はこの出荷時期と重なって、荷主と運送人とが経済的負担を強いられています。

さらに、サントス港での物流滞留の影響は陸路にも派生しています。ブラジルとパラグアイ、アルゼンチンを結ぶ道路では1000台を超えるトラックが国境付近や臨時に設置された待機所で列をなしており、ブラジル南部の都市ウルグアイアナとブエノスアイレスを結ぶ道路でも600台以上のトラックが5日間の待機を余儀なくされています。

3. 今後の展開

サントス港のストライキによって、ブラジル政府は約15億レアル(517億円)の損害を被ると予想されています。しかし、政府は通関職員の要求を受け入れる姿勢を見せておらず、いまだ収束の目途は立っていない状況です。



本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html